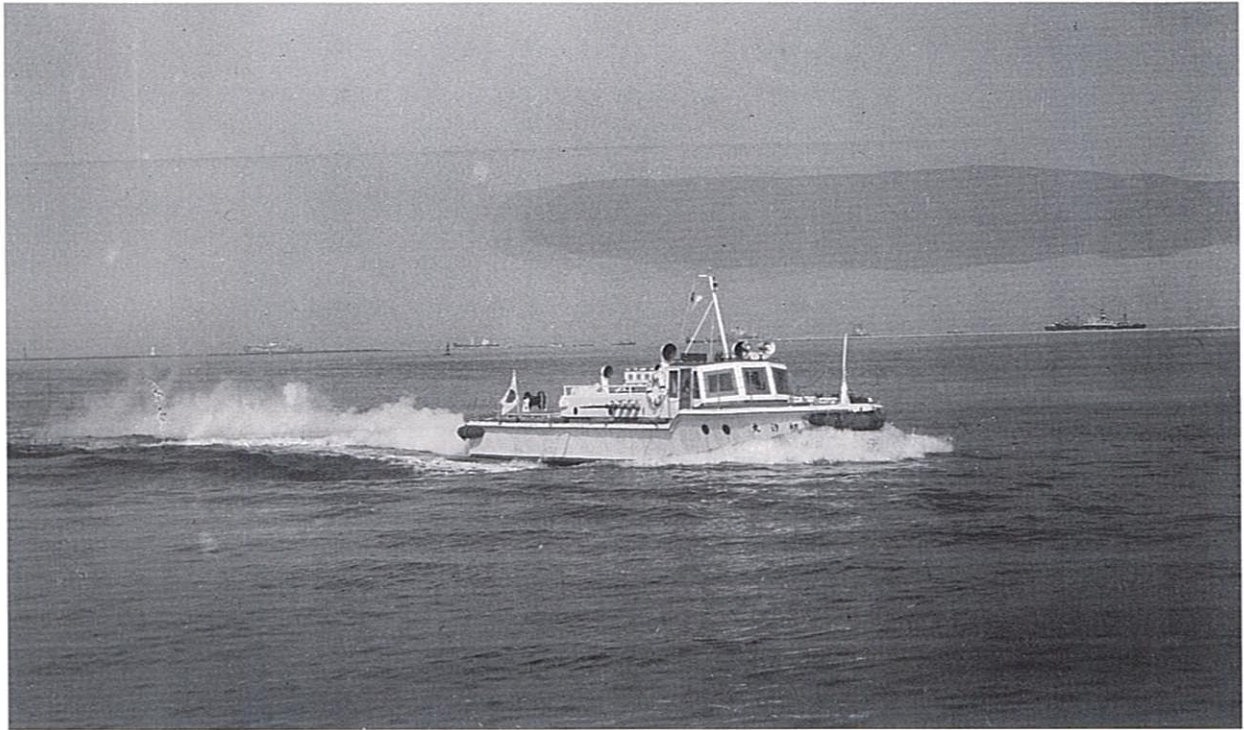
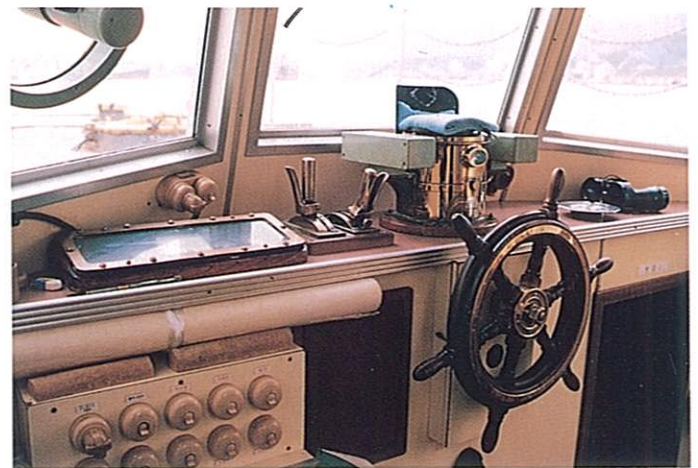


初汐丸



| | |
|-------------|-----------|
| 主 要 目 | |
| 建 造 所 | 信貴造船所 |
| 進 水 年 月 | 1958.3.19 |
| 航 行 区 域 | 平水区域 |
| 総 ト ン 数 | 25.67トン |
| 長 さ | 15.50m |
| 幅 | 3.90m |
| 主 機 関 出 力 | 200PS |
| 速 力 (最 大) | 10.6ノット |



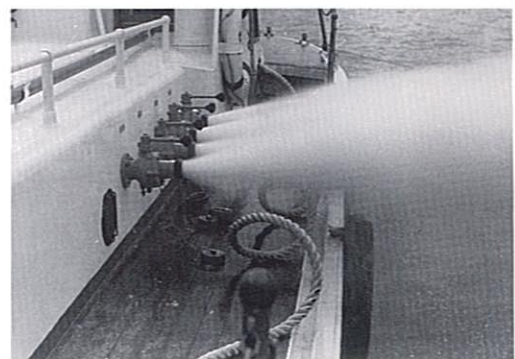
▲操舵室

昭和28年、海底ケーブルの保全対策として埋設工法が登場しウォータージェット式埋設機も考案実用化され、多大の効果をあげていました。

当時、埋設機に送水するポンプは、小型可搬型消防用ガソリンポンプ複数台(4~5台)を20トン位の用船に搭載し、埋設工事を行っていましたが、ポンプ船の艙装、多数の要員配置、ポンプ原動機の騒音による作業員の疲労、原動機の故障等により、しばしば作業が中断されることが多く不便を感じていました。

このことから、埋設作業のポンプ船、漁撈監視、陸揚地付近の小修理、応急ケーブルの敷設が行える作業船として、昭和33年4月本船が就航しました。

本船の建造費は、1,009万2,000円で、昭和32年11月30日起工、翌33年4月28日竣工し瀬戸内海はもとより、航行区域外工事にも活躍しましたが昭和62年1月20日、艀方面陸揚地調査を最後に廃船となりました。

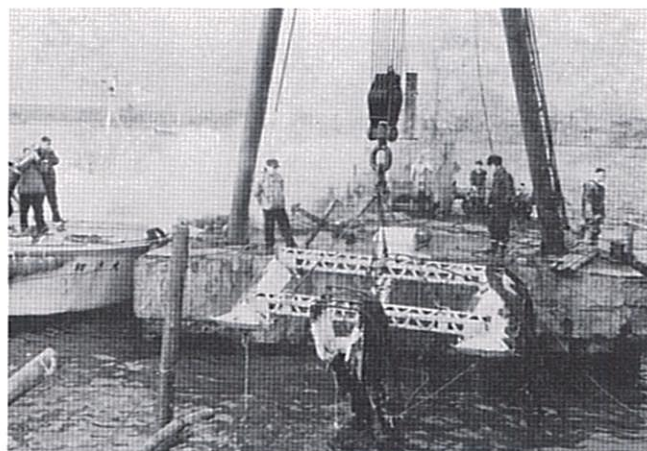


▲初汐丸ポンプ運転放水中

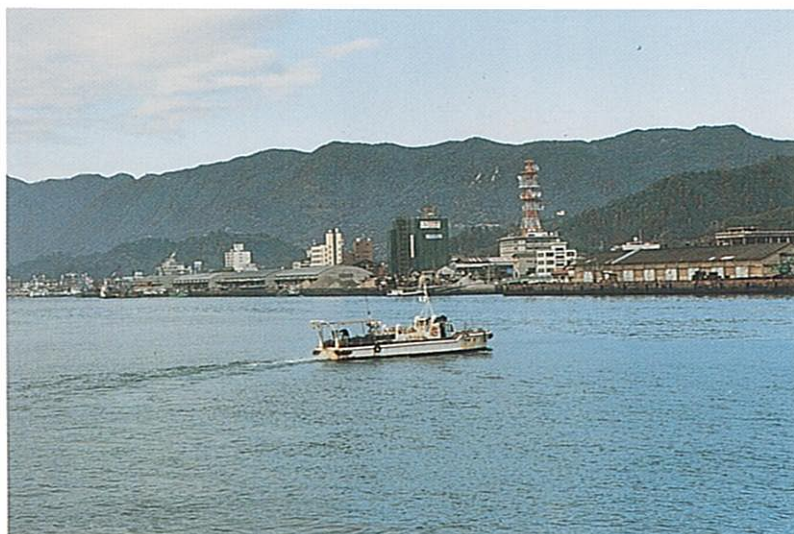
(4段タービンポンプ5,500ℓ/min×10kg/cm²)



▲船固めを終え埋設準備中の初汐丸、ダイバー船。



▲埋設機の曳航を終え吊り上げられた「2.5m, ウォータ・ジェット埋設機」。



◀昭和62年1月10日、最後の航海。
艀方面陸揚地調査のため、尾道
を出港する「初汐丸」



◀昭和62年1月21日、永年住馴れた、尾道海底線工事センター岸壁で、神式によりおごそかに廃船式が行なわれ、それぞれが馴れ久しんだ日々を想起し最後の別れを惜しんだ。